

第2回環境プラザ懇談会

発言された方のお名前がわからなかった場合は「参加者」と表記させていただきました。

司会者 皆さんこんばんは。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は人数が少ないので、皆さんどうぞテーブルの方にお集まりください。遠慮なさらずにどんどん意見をお話しいただければと思います。今日はきっと雨なので人数が少ないのかもしれませんが。

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。

私、今日の懇談会の進行をさせていただきます環境活動推進課長、宮田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、今日、初めてここに来られた方もいるかと思いますが、環境プラザがやっとオープンしました。6年越しに様々な検討を重ねてきて、やっとオープンにこぎつけたところです。いかがですか。様々な感想を持っておられると思いますが、懇談会はこの環境プラザの運営について議論を進めていく会です。このように環境プラザの中でお話をする则実感もわいてくることと思います。

まず、懇談会に先立ちまして、原田環境活動担当部長より、ごあいさつをさせていただきます。

原田部長 皆さん、こんばんは。本日は第2回目の環境プラザの懇談会にお集まりいただきましてありがとうございます。

今話に出ましたように、9月1日に環境プラザがオープンしてから約一ヶ月です。早いものでもう一ヶ月経ちました。この一ヶ月の間、約1,000名近い方に環境プラザを訪れていただきました。また、主に小中学校の総合的学習の時間を利用して来られているケースもあります。今後もそのような利用が増えるだろうと先程担当の者から聞きました。

それから、環境プラザのオープニングに当たって、そのオープニングイベントを実行委員会の皆さんに本当にがんばっていただきました。厚くお礼を申し上げたいと思います。その一週間のイベントでは、札幌環境情報マップですとか、クイズオリエンテーリング、日替わり講座を行っていただきました。日替わり講座では、16のもの講座を開いていただきました。重ねてお礼を申し上げます。

また、宮崎県から松本英揮さんに講師として来ていただきました。松本さんは環境をテーマに世界中を旅されており、今回「世界の子どもたちの叫び」というタイトルで講演をしていただきました。講演会に参加された方もいらっしゃると思います。松本さんは人間が大好きで、語り口が優しくて、聞いていると心に染みてくる、本当にいい話をしてくださいます。お子さんも含めて、約100名の方に聞いていただき、大変好評でした。

今日は、前回の懇談会で出された意見等のまとめの報告をさせていただいて、その上で、今年度環境プラザで予定している事業の説明をさせていただきたいと思います。始めてみるとなかなかスムーズに動かないこと等についてもお話をさせていただきたいと思います。

それから、上田市長は公約で二酸化炭素の削減に大きな目標を掲げられており、そのためのアクションプログラム(行動計画)を作成するように私たちは指示を受けております。今はその検討をしている最中です。明日、市長との話し合いの中で、そのようなお話もすることになっています。このアクションプログラムを実施することが認められれば、その後皆さんにも御説明させていただきます。

実際に実施するには、皆さんのお知恵をお借りして、また、お力をお借りして事業を具体化していくものもあると思いますので、その時はぜひご協力をお願いいたします。

そのアクションプログラムに関連するのですが、市民の方が二酸化炭素の削減に取り組める行動メニューを考えておりました、実費程度補助して市民の方にアイデアを出していただくことも考えております。それも後程説明させていただきますが、ある程度具体化してきたら、ホームページ等でもその募集を行いたいと思っておりますので、その時にはぜひ、ここにお集まりの皆さんにも参加していただきたく思っております。

今日はこれらのことについて懇談会を進めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひします。ありがとうございます。

司会者 どうもありがとうございました。

今、部長からも説明ありましたが、今日の懇談会について、どのように進めるかお話しします。

最初に、第一回の懇談会の時に意見として出されていましたが、まず前回の懇談会のおさらいをさせていただきます。その後、プラザがオープンしてちょうど一カ月経ちますので、特にオープニングイベントを含めて御説明させていただきます。それと、プラザが今年、この後どのような事業を展開していくのか、プラザの事業について御説明いたします。

それからその後で、先程部長からもお話ありましたけれども、二酸化炭素削減のプログラムについて、特に今年実施する「さっぽろ・ストップ・ザ温暖化キャンペーン」の内容について御説明いたします。

さらに、明日市長に説明するメニューなのですが、二酸化炭素削減のアクションプログラムで用意している計画の中の、特に皆さんからアイデアを募集する企画について御説明させていただきたいと思ひます。

この懇談会は一応9時を目処に終了させていただきたいと思ひます。このように、誰でも自由に参加し、自由に発言をしていただくという形式の懇談会であります。今日人数があまりいらっしゃいませんので、ぜひ皆さん潤達な御意見をさせていただければと思ひます。

早速、前回の懇談会のおさらいから願ひします。

事務局 推進係長の黒川でございます。おばんでございます。時間限られておりますので、早速始めたいと思ひます。お手元に前回の懇談会の会議録、資料1がございます。こちらを私の方から御説明申し上げたいと思ひます。要約でございますので、ニュアンス的には若干食い違っているようなケースもあると思ひますが、もし全然違うということがあれば後程御指摘ください。

前回は、まず札幌市の方から環境プラザについて報告と説明をさせていただいております。参加人数については、約50名。その内数に、札幌市の方が7名ほど入ってございました。

最初は、私どもの方からの説明でスタートいたしまして、まず、開設に向けての進捗状況ということで御説明させていただいております。

皆さんも御存じのとおり、オープニングイベントを1週間開催させていただきまして、札幌環境情報マップの作成、環境プラザクイズオリエンテーリング、そして環境日替わり講座、そして松本英揮さんの講演会という内容でした。

あと、プラザをより皆さんに知ってもらいたいということから、周知用のパンフレット、配付資料の1と書いてございますが、これは、7月23日にこの懇談会を開いたときの配付資料の番号です。皆さん御存じだと思いますけれども、六ツ折りのリーフレットでのことでございます。

次に、中央図書館との図書の取り次ぎの件で御報告しております。これは、私どもの方から、ひとつ謝らなければならないことだということで御紹介したのですけれども、情報センターで、市内の図書館、特に中央図書館さんと本の貸し出しについてやりとりができるという御説明を、今年3月の意見交換会でしていましたが、体制がうまくまだ組めておらず、今後の課題として残っていることのお詫びを交え御説明させていただきました。

それから、この懇談会の開催目的につきましても、改めて、どのような位置づけなのか、プラザの運営のあり方について話をし、意識の共有を図りたいということをお説明しております。

続いて、予算と業務内容でございます。財政局の方といろいろ調整と申しますか、けんかしながら予算がついたのですが、当初、我々考えていた予算額の半分以下、870万円しかつけられなかったことを説明しております。特に、職員人件費、それからホームページ。情報の収集、提供ということでは非常に大事な部分です。それから、外部から招く講師の謝礼、これについては、事柄がはっきりしていないということもありまして、ざっくりと削られてしまいました。

次に、今後の環境プラザの運営の考え方について説明をさせていただきます。3年を目処に委託化を考えていると御説明いたしました。まず今年度、15年度は、まず、共有認識を持つことが大事であろうと。そのようなことを図りたい。16年度については、どのような形での運営が望ましいか、運営と申しましても、施設管理もございまして、それから、本当に単発の事業もございまして、相談業務のようなこともございまして、いろいろな業務がございまして、それらを含めての合意形成を行いたいと考えております。17年度については、新たな運営体制について実際に準備を進めたいと、そのような御説明をいたしました。18年度については、新たな運営体制で改めてスタートしたいと。運営体制に関しましては、当日配付資料の2をお渡しして幾つか案を提示させていただきました。

次に、いろいろな意見交換をさせていただきました。

上から参りますと、委託に関して、幾つか御質問、御意見をいただいております。

まず、意見交換会を3月に行った時には、委託は5年ぐらいを目処に、ということであったのに、3年になっているのは何故だという話がありました。これにつきましては、委託を考えていくようにという内部的な話もありまして、私どもとしては、3年を目処として改めて整理をしているとお話をさせていただきました。

次に、どこまで委託するのか、どのように委託するのか。それぞれの得手不得手があるので、そのような部分をどのようにうまく組み合わせていくのか。それから、単なる経費節減ではないのか。それから、委託という形ではなくて、別の形の協働も考えられるのではないかと。様々なスタイルがあるだろうという御意見、御提言がありました。これについては、まず合意形成という中で、その辺についてもお話をしていく必要があり、この懇談会の場で話をしていきたいと回答しました。

次に、懇談会に関して2項目でございます。懇談会の位置付けに関してですが、今私どもの方が環境プラザを運営しておりますので、意志決定機関とは位置付けてはおりませんが、できるだけ反映するための話し合いの場と考えております。

それから、今後のスケジュールにつきましては、月1回のペースで実施をしていきたいと考えております。

また、これも懸案でずっと引っ張っておりましたが、道の環境サポートセンターさんとのすみ分け、違いのお話がありました。これについても、できるだけメリットを生かせるように協力体制を運営をしてほしいという御要望等もありました。

次に、その他として、札幌市民以外はプラザを利用できないのかというお話ですとか、もっと開催についてアピールして、広く周知をして、たくさんの方にお集まりをいただくべきでないかというお話がございました。我々としまして、できるだけということで、市のホームページだとか、道の環境サポートセンターさんのメーリングリストを利用させていただいておったのですけれども、さらに上に行く案がないということで、今後の懇談会の中で、あればお教えいただきたいと思っています。

また次のページ、3ページ目です。最後になりますけれども、ちょっとドキッとするようなお話だったのですけれども、環境プラザ職員の人員選基準はどういうことで選んだのかというお話がございました。

それから、小中学校にパンフレットを配布する目的、また、その効果ということで御質問がございました。我々の方としては、まずは知っていただくということで、パンフレットは広く配布をさせていただいているとお答えをいたしました。

最後に、懇談会の内容をわかりやすくまとめてほしいとお話でありました。今使っているレジュメがそうでございます。このような形で整理をして、ホームページの方にも掲載をさせていただいています。

ざっとおさらいということで、会議録の方を御説明させていただきました。

司会者 どうもありがとうございます。

前回の懇談会のおさらいということで、何か御意見ございますか。出てない方もおられるかと思えますけれども、よろしいですか。

一言追加で説明させていただきたいのですけれども、めくって裏側に、環境プラザの機能について、北海道環境サポートセンターとどのように違うのか、近くにあるが、どのように使い分けしていくのかという御質問の中で、一番大事な回答が抜けていたので追加させていただきます。

北海道の環境サポートセンターは、市民団体、ここに書いているとおり、市民団体の活動をサポートしていくことを目的としていらっしゃると思います。それに対して、私どもの環境プラザは、市民や子供たちが環境行動を起こせるよう、環境学習の拠点となっていきたいと考えております。対象が団体の支援に対してと、個々人への環境行動と環境情報の拠点ということで、意味合いが違うという住み分けが一番大きいのではないかと思います。

御意見ございますか。なければ、続けてプラザの事業について御説明させていただきます。

事務局 プラザのこれからの事業の説明に入ります前に、今日御手元に配付しています資料の確認をさせていただきます。

皆さんお一人ずつには、資料1から資料3という資料を配付させていただいています。資料1は、今お話しさせていただきました前回の議事録です。資料2につきましては、これからのプラザの事業で、平成15年度の事業です。資料3が、ストップ・ザ温暖化キャンペーンに関する資料です。

資料2を説明するに当たりまして、なかなか言葉だけでは説明できない部分もあることから、資料4から資料10を用意させていただきました。こちらの方、冊数等の関係もあるものですから、今回御出席いただいた皆様方全員に、という形をとることをいたしませんでした。皆さん何人かで見ただけのようにテーブルの上に置かせていただきました。そのようにご覧いただけたらと思いますので、御了承お願いいたします。

それでは、イベントの話させていただきたいと思いますので、9月からの環境プラザの状況について御説明させていただきます。

事務局 冒頭で原田部長が申しましたように、9月1日から1週間、オープニングイベントを行いました。この経緯は、先程も申しましたように、何年越しという時間をかけて、プラザの立ち上げに多くの方に関わっていただき、御意見もいただきました。やっとオープンにこぎつけて、この記念すべき瞬間をみんなで盛り上げようと、関わりの強かった方たちが中心になって声を挙げてくださり、企画書を持って市の方に来ていただきました。

市と一緒にイベントをやらないか、では一緒にやりましょうと合意しまして、そこで、「オープニングイベントをみんなでやろう会」という実行委員会で準備を始めました。

7月4日に第1回の会合を行いまして、その時に、イベントのメニューを決めました。先程の資料1の冒頭にも書いてあります、1の(1)から(3)まで、3つのイベントをやりましょうと。それぞれの担当を決めまして、その後、個別に打ち合わせ、メーリングリスト等を活用しながら、必要に応じて集まるなどして準備をし、当日を迎えました。

イベント期間の1週間、毎日の人の入り込み状況を当初数えておりませんでした。先程、9月全体で約1,000人来館しましたと話しましたが、1日から7日についてはカウントしておりませんので、もっと多くの人に来ていたかと思えます。環境プラザのオープニングイベントだけではなく、この期間は4施設全体のイベントが行われておりました。他の施設にもたくさんいらっしゃっていたので、ついでに環境プラザに寄っていかれる方もいらっしゃいました。

それぞれのイベントについては、実施後、実行委員会の方で独自に、その評価を行おうということで、メーリングリスト上でいろいろ意見交換がなされておりました。その件については、市の方は出遅れまして、御意見申し上げる時期を逸してしまったのが反省点なのですけれども、メーリングリストで交わされていた意見を御紹介しますと、環境情報マップについては、今後も継続して行ったらいいのではないかとか、今回、NPOの景観プロジェクトという団体の御協力を得て行ったのですけれども、このような連携もいいのではないかとか、そういった意見もありました。

また、日替わり講座につきましては、かなりたくさんの意見が出ておりました。この研修室を使用したのですが、研修室の使い勝手がよくわからなかったのも、今後使う際にはもう少しわかりやすい案内が必要ではないかとか、せっかく来場した様々な層の人たちから、ニーズを把握するためにもアンケートをとったらよかったのではないかとかという御意見ですとか、あと、全体的に広報をもっと充実するべきではないかと。例えばメルマガを発行して、様々な案内を随時発信するようにしたらいいのではないかとか、いろいろな建設的な御意見がメーリングリストの中で交換されていました。

今回のイベントは、この1週間で一区切りつけたわけなのですけれども、こういった御意見については、今から御説明します環境プラザの事業の中で、市民の方とどのような連携がとれるかという点で、非常に参考になる意見だったと思います。また、この1週間貴重な経験を一緒にさせていただいたと思っております。

以上です。

事務局 このイベントについて御質問、実際に、やろう会でなされたメンバーの方もいらっしゃるのですが、何か補足とかあれば御意見等をお聞きしたいと思うのですが、どうでしょうか。

参加者(男性) メーリングリストについて教えてください。またやろう会は何名くらい参加されたのか。

事務局 メーリングリストにつきましては、まず、やろう会というメンバーの方たちが中心になって動いておりましたので、やろう会の中でメーリングリストが立ち上がりました。実際に、やろう会

は、有志の方たちという形だったものですから、市の方も一緒にイベントをするという形になりましたので、市のホームページの方で、皆さんやりましょうと呼びかけをさせていただきました。実際に呼びかけをさせていただいた中で、大学生の方とか社会人の方も参加してくださったのですが、そのような仲間の中で進んでいきました。その仲間、メーリングリストという形で体制が整っていたという状況です。

ただ、そのメーリングリストは今、継続はしているのですが、私の仕切りの中では、まずオープニングイベントの中で動いていたと考えております。いろいろな情報交換がこれから懇談会等で行われると思いますので、それはまた違う形で動くのかなと思っています。一応そのメーリングリストは、やろう会の中のメーリングリストという捉え方です。

実際に動いてくださったのは20名から30名程の方々だったと思います。ただ、それを進めるに当たって、いろいろなサポートというのでしょうか、そのような方々もいたと思いますので、それを考慮しますと、かなりの人数の方たちが当日まで動いてくださったのではないかと思います。ただ、全体の人数の把握は、申しわけないのですが、しておりません。やろう会は2、30人ぐらいで動いておりました。

参加者(女性) 今、このオープニングイベントを市民からの企画案で、そのように進めていかれたことが、これから先の参考になりましたということですが、もう少し具体的に、一緒に行ったことに対してどう評価されて、それからどのような成果があったとお感じなのか。まだまとめてはいらっしゃらないと思うのですが、その辺を聞きたいと思います。

事務局 完全にまとめておりませんので、環境プラザ全体として、組織としての意見にはならないのかもしれませんが、私の方から感想を述べさせていただきます。

実際に、今回市民の方たちと事業を一緒にするという部分では、良い面と悪い面があるのかなと思いました。と言いますのは、ある程度スケジュール的なものを見ますと、実際に会が発足した時期としては、オープニングへ向けてという点ではかなり遅かったものですから、いろいろな企画を段階的に進めていく中で広報の周知というのもありましたが、それを進めていく中でも、段取りというのでしょうか、集まるという部分につきましてもできない部分もあったと思いますし、そのような段取りやスケジュールと一緒にやっていくという難しさというのはあったのかなと思います。

ただ、いろいろと進めていく中で、やはり市民の皆さんの視点からいただいたアイデアもあります。そのような部分を拡大していくかというか、広げていくという部分では、一緒にやれたのはとてもよかったです。

実際に、協働と言いましても、一緒にやっていくという立場の中で、どこまで協働ということが言えるのか、責任の役割分担というのをどう考えるのかということがとても難しかったと思うのですね。やはり一緒にと言いましても、ある部分は市の方で相当時間的にも人的にもというのでしょうか、そこを担わなければならない部分もあったと思っています。オープンに向けて、オープニングイベントの他にもいろいろな事業を持っておりましたので、そこでイベントの方にはかなり人が、集中的にということではないのですが、いろいろなものを担わないといけない部分があったという現実が、私の立場としてはあったのかなという感想を持っています。

ただ、全体的には、これからはプラザが今後市民の皆様方にお使いいただく、また皆さんと一緒に創り上げていく施設であると思っていますので、そのような部分も課題という形で、どのような役割の中で事業を進めていけるのか、運営ができるのかを検討していくという一つの材料にはなったと思

ますし、そこを共通認識の中で何ができるかという役割分担と申しますか、それぞれの中で、責任の主体が見えてくれば良いなと思っています。

申し訳ないのですけれども、係の単位での反省をまだしていないものですから、それぞれの担当者の中では、それぞれ反省点や課題も持っていると思うのですけれども、一応、まず代表してということで、私の方からその感想を述べさせていただきます。

司会者 よろしいですか。他に、御意見ございますか。

それでは事業について説明をお願いします。

事務局 プラザの今後の事業ということでお話をさせていただきます。

前回、プラザが運営を委託していく形態について、業務の運営という部分と、組織の検討という部分の2つがあって、その中で事業がどう重なっていったら組織ができて、運営ができるのかという点があったと思います。

なかなか委託をしていくというイメージがわからない部分もあると思いますし、先程、前回の懇談会でも、何を委託していくのかという御質問もあったものですから、まず、事業という視点から、実際にプラザがどのような事業を持っていて、その事業が委託をするに当たって、どのような性格を持っているものか等、イメージをまず持っていただけるように、今回、資料2に、今後プラザが実際に事業として展開していくとものを用意させていただきました。

前回の復習にもなるのですけれども、環境プラザの予算は870万円を持っているのですが、その中で、実際単独で事業費がついている事業として、資料2を用意させていただきました。

とりあえず今、私どもの方で7本、事業費がついている事業を持っています。一つは、環境総合講座で、これをイメージしていただくために資料4を付けさせていただきました。これは昨年度のもので、昼と夜、2コースに分かれまして、同じ方に12講座を4カ月に渡って受けていただいた講座になっています。テーマも、地球環境問題や音環境問題、あと、施設見学をしたり等、かなり幅広いテーマについて受けていただいて、最後に修了証を発行という形で動いていた環境総合講座です。

ただ、今年度につきましては、これからこの講座が動く形になるのですけれども、やはり多くの方たちに受講していただくような工夫は必要だと思っていますし、また、対象者も、その方たち、その人ひとりにいろいろなものをということではなくて、やはりターゲットに合ったというか、その層に対して合ったテーマをそれぞれ受けていただけるように、対象を絞った形での連続的な講座を展開するよう、今後考えていきたいと思っています。これは、先程のニーズ、市民の方たちがどのようなことを望んでいるのか、イベントの中で、ニーズをどうとらえていくかということが課題でありましたので、その辺も御意見を参考にさせていただきながら、どのようなニーズを捉えていくかも考えながら、実験的にはならないと思いますが、今年度の事業として活用していければと思っています。

それと、環境保健保全アドバイザー制度と環境教育リーダー制度という制度を持っております。こちらは、実際に市民の皆様方の環境保全活動を支援するということで、専門家の方を派遣したり、リーダー制度につきましては、私どもの方でいろいろと研修を設け、それを受けていただいた方たちを学校等へ派遣するという、ボランティア的な形で創設させていただいた制度です。これは、要望がかなり増えてまいりまして、資料の中にありますように、今年度9月末までに23件、1,200人の方がアドバイザー制度をご利用になり、あと、リーダーについては10件、550名の方が御利用いただいています。環境教育リーダーについては、今、総合学習が進んでおりますので、小学校の自然観察等で派遣しているものがほとんどとなっています。ですので、参加者数は大部分が小学生となる

と思っています。

こちら両方とも、やはり市民の活動を促進していく部分でとても大切な事業だと思っていますので、この事業については今後も継続していく形になると考えています。

ただ、やはり先程ニーズというお話もありました。いろいろな環境問題が多岐に渡ってきており、皆さんが興味を持たれている分野というものも広がってきていると思いますので、この辺も整理をしていながら、皆さんの御要望に応えていける事業の展開が必要だと思っています。

それと次は、kids ISO プログラムについて御説明いたします。これは、小学生、中学生を対象にしており、環境保全活動を行っていただくためのツールとして札幌市の方で用意をさせていただきました。こちらは、実際にツールとしては、アーテックというNPO法人がございまして、そちらの方で作成している教育プログラムを札幌市の方との協働で実施をしていく形になっています。こちらは、省エネ活動を進めてもらうものですので、今後、私どもプラザの方も地球温暖化の対策のひとつとして、こちらの事業も来年度も継続してやっていく形になると考えています。これについては、市内小学校1校と、現在、こどもエコクラブ1団体が参加しております。

ただ、私どももこのような形で、学校を対象にして様々な事業を展開していきたいと思っはいるのですけれども、課題も多いです。実際に学校現場に環境活動の開拓と申しますか、このようなツールを御紹介したり、様々な活動をどうでしょうかとお話をさせていただく場面もたくさんあるのですが、なかなか学校現場で、このようなものを取り入れていただくというのは難しいというのが今現実にプラザが様々な活動を進めていく中で課題になっています。その辺をある程度打破していきたい。環境プラザがなかなか学校現場に、環境教育という視点でいろいろなものを広げていくという難しさを実際に感じている状況になっています。kids ISO プログラムについては、かなり予算をとりまして何百人という単位で進めたいと今年度は考えていたのですけれども、現実には小学校が1校と、こどもエコクラブの団体が1件という、このような現実になっているという状況です。

それと、エコファミリー事業といいますが、一般の家庭を対象にしており、省エネ活動を実施していただくための省エネナビという機械がございまして、それを貸し出しして省エネ活動に取り組んでいただく事業になっております。これは冬を想定しておりますので、これから進んでいく事業です。

次に、エコライフ WEEK 事業というのがございます。これは、環境家計簿を子供たちにつけてもらうという、やはりこれも省エネ活動です。これも先ほどの kids ISO と同様に、子供たちを対象に進めてまいります。やはり教育委員会等の関係絡みで動いてはいるのですが、年度途中で事業を取り入れることができないとも聞いておりましたので、実際に事業が始まる昨年度から札幌市教育研究協議会の先生方と交渉したところ、やはりこれを一緒に進めることがやはり難しい、と。学校現場との連携も大きく私どもの壁になっているというのが状況です。

それと最後に、こどもエコクラブがございまして。これは、実際には環境省の推奨している事業です。お手元に資料があるかと思えます。資料10ということで載せさせていただいておりますが、これは全国で展開しており、札幌市も事務局になってございまして、札幌市内にある、子供たちの活動を支援するというところでやっている事業です。

こちらは、実際に今13団体で、会員数約273名の子供たちが活動してくださっています。これも実際に私ども小学校、中学校に、このこどもエコクラブの参加等呼びかけております。ただ、やはりこれも、参加してくださるといのは難しいのが現状です。学校という単位以外に、今、地域でという単位であったりとか、学校以外で動いている方が多かったです。実際にサポーターが

いなければ、子供たちの活動が繋がらないことがありますので、今年度については、サポートをしてくださっている大人の方たちを対象に、インタープリテーション()という研修をさせていただいたりということも、こどもエコクラブを拡大するためにしてはいるのですが、なかなかクラブ数を大きく拡大していくのも困難です。

インタープリテーションとは一般的に「通訳」と訳されるが、外国では「自然遺産や文化遺産を通訳すること」も表し、自然、文化、歴史(遺産)をわかりやすく人々に伝える活動のことを意味する。

私ども環境プラザの環境教育ということで、事業の説明をさせていただいたのですけれども、いかに子供たちに対して環境保全活動を進めていくかを大きな目的としている部分もあります。その関係で小学校、中学校、教育委員会を通していろいろな活動を、直に先生方にお会いしたり、校長先生にお会いしたりということを重ねてはいるのですけれども、その労力の割には件数が上がっておらず、現実的に広げていくという困難さを感じているという状況です。ですので、逆にこのような懇談会で、子供たちへ広げていく部分をどのように展開していくか、アイデアとか、このようなことをしていけば広がっていくよというような案があれば、ぜひぜひこの中で出していただきたいと思いますし、これらの事業は、プラザで今後継続的に進んでいく予定なので、今後、運営のあり方という中で、委託していくという形の中で、このような事業も見えてくるのかなと思っています。

ただ、前段で申しましたとおり、市長の方から二酸化炭素の対策ということを言われておりますので、来年度以降、かなりそちらの方にシフトしていく事業も出てまいります。来年度、事業の継続にならなくて、少し変形してという形の進み方も出てくるかと思うのですが、一応、事業としては、このような形になっています。今後について、NPOなり、どのような形になるかわからないのですが、委託をしていく事業がこのようなものだイメージしていただくために、今回説明をさせていただきました。

以上です。

司会者 どうもありがとうございました。

説明がまだ実はあるのですけれども、説明ばかりになってしまいますので、ここで一旦区切ります。何かございませんか。プラザの事業、展示物、この研修室、それらの感想などでもいいと思います。

まず、プラザの事業について御意見をいただきたいと思いますが。

参加者(女性) 先程、9月1日のオープンから、総合学習で中学校が来られたというお話をお伺いしたのですけれども、総合学習で来られたときというのは、どれぐらいの時間で、どのような活動をなさって帰られたのですか。

事務局 多岐に渡るのですけれども、多岐というか、いろいろな子供達の視点によるのですけれども、例えば、大体多くのケースが、「環境問題について教えてください」、「環境問題って例えばどんなことですか」と、こちらから返すと、「何でもいいです。環境問題について教えてください」ということが多いので、先程皆さんに御説明したような、環境問題全般について広く浅く御説明させていただいて、その後に、深く、このようなところに疑問を持つことや、深く知りたいことがあったらまた来てくださいねという説明に、今のところはとどまっています。

中学校のスケジュールでは、恐らく10月、11月が最も、校外から出て学習する時間が多くなる時期らしいのですよ。ですので、来た子供たちが家に帰って、自分たちの質問や疑問をまとめて、またプラザに戻ってきて、例えば水のことや、大気汚染のこと温暖化について等、また質問が来るので

はないかと考えています。

時間に関しては、大体1時間説明したら少々長過ぎるので、大体30分から1時間弱の間で説明するようにしています。

参加者(男性) こちらに学習で来られたら、何時間くらいいるのですか。

事務局 生徒さんのスケジュールにもよるのですが、大体1時間ぐらいでお願いしますと、こちらの方に来ますね。

参加者(女性) クラスで子供たちが来るというよりは、何人かのグループとか、例えば個人とかで授業時間中に、あなた聞いてきなさい、私、聞いてきますとかという感じで来るというのが多いわけですか。

事務局 中学生に関してはそうです。小学生に関しては、クラス全体でドーンと来て、子供たちが先程の展示物にいろいろ触って、その後で、これは一体何なのとか、あれは一体どういうことなのという形で、皆さんが好きに読んでばらばらに質問をこちらに投げかけてくるという、そういうような形ですね。

事務局 生徒が自主的に来る場合もあります。あと、先生が授業の組み立ての中で、プラザ見学を行程の中に入れて、それで事前に、いついつ行きたいのだけれども、どうでしょうかという申し込みがあって、来られる場合もあります。

また、プラザの研修室で総合学習の授業を開いたことも1件あります。講師の人を外から招きまして、札幌の自然をより深く理解するために、地元の公園の緑の変遷をテーマにお話しされました。

あと、学校に外部講師を招いて、総合学習をしたいという依頼もありました。その時には、アドバイザー制度やリーダー制度を活用して、講師のあっせんを行いました。

司会者 よろしいですか。他に御意見ございますか。

参加者(女性) 私は札幌市民ではなくて江別市民です。定期を持っているのでほとんど札幌にいるという状態なのですが、環境教育リーダー制度というものがよくわからなかったのですよね。それで、今回の環境プラザのオープニングイベントでも、環境リーダーさんが集まっていくつか講座を持たれたとあるのですが、環境教育リーダー制度というのはどのようなもので、どのような人がリーダーになって、どのような人がどのような基準で派遣されていくのかを知りたいと思いました。

事務局 環境教育リーダーの制度を立ち上げたきっかけといいますのは、小中学校で総合学習の時間が、2、3年前に始まりました。それを支援する人材が必要ということで育成したわけです。既に、アドバイザー制度というのはあったのですが、その方たちだけではなく、もっと身近な、子供の視点から語りかける人たちとして、学校の教職経験者ですとか、あるいは独自に自然関係の活動をされている方に声をかけたり、募集をしました。当時、約40名の方が、市で企画した研修を受けてくださりまして、その中で希望する方に教育リーダーとして委嘱いたしました。

現時点では、制度を使う場合、個人のリーダーを指名していただくのではなく、こちらの方で何人の派遣が必要か、あとは、個別に市の方からアポイントをとって、都合のつく方を探します。その都度派遣する人をこちらの方で決めています。闇雲に決めるのではなく、今、リーダーの自然担当グループは、大きく3つのグループに分かれており、「植物と野鳥」のグループが14名、それから、「植物と昆虫」というグループが12名、あと「川と水生生物」という、水系のことを専門にしているグループが10名か11名程度います。その時の派遣の依頼内容に応じて、どのグループがいいか、あるいは組み合わせ等々のコーディネートもこちらの方でその都度しております。大体よろしいでしょ

うか。

司会者 簡単に言えば、野外観察の講師を呼んで、何か活動したいという時に、その費用を札幌市が負担をし、そのような活動を支援していくという制度と御理解ください。

アドバイザー制度というのは、かなり専門性の高い人たちが登録されています。

もっと気楽に、例えば学校の先生のOBのような方たちが気楽にその学級の中に入って指導等をする、環境リーダー制度というのを設けています。この制度のどこかに線があって、はっきり違う厳密な区分というのはございません。

最近、今お話ししたように大変派遣の要請が高まって、あらゆる活動で、そのような機会を設けています。

アドバイザー制度と環境教育リーダー制度は、厳密に区分があるようなものではありません。

参加者(男性) 環境プラザのビジョンと申しますか、方針、最終的に何を目標とされているのか、何を目指されているのか、そのあたりを教えていただければうれしいのですけれども。

司会者 この懇談会も、そのような意味で設置をして、皆さんの御意見を伺っているのですが、施設自体は、このように出来上がって、器は出来ているわけです。これを市民を含めてどのように運営をしていったらいいか、環境の活動をしていく上で、どのように市民が関わり合っていく事業運営形態が一番ふさわしいのかをこの懇談会の中で考えていきたいと思いますというのが、この懇談会を設置した理由です。目指すところは、もちろんこれは設置の目的そのものになってしまうかと思うのですけれども、やはり広く市民に環境活動の行動を起こしていただきたい。そのためにはどうしたらいいかという、やはり情報をきちんと提供するなり、環境活動をしていく人たちを増やしていくことが求められるかと思えます。

そういった意味で、この場所が拠点になって、特に子供を対象にしている部分があるのですが、環境活動の輪を広げていきたいと思いますということが目的と考えていただいてもよろしいかと思えます。

参加者(男性) 子供だけでなく、今の親も、今、地球がどれだけ汚染されているのか知らないで、自分たちはあと20年ぐらい生きていけばいいのだから、このままでいいのだと考えている親の方も結構いると思うのですが、子供だけでなく、親の方も、大人の方ももっと教育というか、わかってもらわなければいけないと思っています。やはり私も子供がおりますけれども、10年、20年後には地球がどんどん汚染されていって、子供に「10年前にお父さんは気がついていたのに、どうしてもっと行動してくれなかったの」とか、そう言われたくないものですから、できることはいろいろと取り組んでいきたいと思っており、それで、この環境プラザの方にも出席しました。

司会者 ありがとうございます。

全くそのとおりで、今回、後から御説明いたしますけれども、二酸化炭素を削減し、地球温暖化を防止しようと、大きなプログラムを組みます。その中の一番最初に、危機意識を持っていただく、情報をきちんと伝えましょうということをテーマにプログラムが組まれます。その次の段階で、行動していただきましょうと進むのですが、行動とは、ムーブメントを起こしましょう、一つの大きな流れというのでしょうか、うねりをつくりたいと思っています。カチコチの行動だけを期待しても、なかなか行動の輪が広がっていかないと考えています。ですから、流行性等も含めて、一気にムーブメントを起こそうと。それにはどのようなプログラムがあるのだろうかというのを、一生懸命考えて、後から皆様にも応募をお願いするのですけれども、このプラザとは別の次元になるかもしれませんが、そのようなプログラムを今考えているところです。今言ったプログラムを、このプラザを一つの発信

の基地として、提供なり、活動していきたいと考えています。

イメージだけわかっていただけでしたか。

参加者(女性) 今、男性の方がおっしゃったように、ビジョンというのか、それが私にも、見学させていただいた中で、見えてこない部分があったのです。例えば私は一主婦ですけれども、孫もいるような世代になりましたよね。そうしましたら、結局、子供に教育する上で、親もですけれども、生活するという部分での視点の環境問題というか、それが大きな地球温暖化の問題につながるというふうになっていないと。私個人の感想からしますと、つながっていかないような展示物の気がしたのです。ですから、もうちょっと、本当の生活の視点で、身近なことから、こういうことに気をつけていけば、このように広がって行って、将来はもっと住みやすい地球になっていけるのだよと。だからお父さんもお母さんも、僕たちも協力してやっていこうよという形に見えたらというのがあるのです。

ですから、温暖化キャンペーン云々で、各方法論が今後出てくるのでしょうかけれども、すごくシビアな言い方、申し上げますと、自動車があって、エンジンがかかる音がして、ラジオは鳴るけれども、こうやってエンジンかかって、お父さんが冬に何分間か暖気運転したら、これだけ二酸化炭素が出るのだと。今の技術では、暖気運転は要らないのだと、そういう掲示なり情報を伝えると、「お父さん、暖気運転って要らないんだって。今のエンジンはいいらしいよ」と、そして、「5分間暖気運転しなければ、これだけ二酸化炭素が少なくて済むんだってさ」というような、排出が少なく済むのだというような視点があったり、細かく言うとたくさんあるのですけれども、そういうところから子供は、家庭の中の会話として、地球の問題を考えていくという形で広がっていくかなという気がしたのですよね。

ですから、すごく物をつくったのだけれども、どの視点でどのように、温暖化を考えるから、このようなものをつくったのだというのが、何かちょっと私個人では足りない気がしたものですから、どうしてもこの事業の説明会等に出て、今後どうなるかなということを見届けたいというか、そのような気持ちがあって参加しました。

事務局 今の御意見は本当にありがたいと思っています。今実際に9月1日にオープンしました。展示物という形で、このようなものができました。今おっしゃっていただいたように、この展示物がすべて100%メッセージを伝えられるとはスタッフも思っておりません。その中で、今いるスタッフがどのように伝えていけるのかが今課題だと思っています。実際に、この展示物だけでは語れない部分を今、アイデアを職員の中でも出して、具体的な行動につながっていくものを展示していくという工夫を重ねたいと思っています。

ただ、やはりそこも、私たちの視点だけしかない部分もあると思います。実際に主婦の方もいたり、大学生の方もいたり、いろいろな事業者の視点があったりします。そこで、やはりプラザでは、展示物ひとつでも、皆さんの知恵というかアイデアをいただいてでき上がっていくものと思うのです。それを私たちが語れば良いと思いますが、そこに皆さんの情報をどう集めていくのかも今後の課題にはなると思います。今展示物が100%とは当然思っておりませんし、また逆に、皆さんからそういう御意見をいただかないと、私どもどのようなステップアップをしていかなければならないかもわかりませんので、どしどし御意見はちょうだいしたいと思います。今、いろいろなものでムーブメントを起こしたいとか、市長がいろいろなこととお話ししている部分も、やはり皆さんと一緒に動かしていけないといけないと思っていますので、展示物そのものは変えられないと思うのですが、気持ちの部分で伝えていくという、語りべ的な部分で、どんどん皆さんとは協力と申しますか、逆にお願いを

したいと思います。

事務局 南さんのおっしゃるとおりで、展示物、すべからくいろいろな環境問題を提示し、認識させるというのは、これは、いわゆる造り物ですから、現実にはやはり不可能です。特に、環境というのは、いろいろな事柄が複雑に絡み合っているし、事象自体がすごく直感的にわかりづらいですよ。外を見て、今、環境はどうですかと言って、景色を見ても、これは表現できない事柄なのですよ。

我々は造る時に非常に考えまして、これが答えだからこうしようと、そのように答えを掲示することは、実は、あえてやめました。というのは、今、子供たちに一番必要なことは、いわゆる総合的学習の中でも言われていますけれども、考える力ということが今すごく言われていますよね。確かにそのとおりだと思うのですよ。受け売りで、1足す1は2だからといって育ってしまったのが、実は私どものジェネレーションです。今は、そうはしたくないという指導の形態になっていると。私、それはそのとおりだと思うのです。なぜだろうと思ってもらって展示物は終わりにしたいと。その先は、なぜだろうということを考えてもらいたい。その結果は、試行錯誤は必ずあると思うし、間違いもあると思うのですよ。

例えば環境問題で、リサイクルがいいよと言っても、リサイクルは実はベストでないのかもしれない、でも、あることについてはベストかもしれない、いろいろなケースがありますよね。それをまず子供たちに考える素材として提供したいと考えたのです。我々の方でのインタープリテーションの解説の中でも、問いかけると申しますか、投げかけて、首をひねらせて、考えさせるということをぜひやってみたいと、造る時にすごくイメージしたことなのですよ。

実際にこれから、小学生もたくさん来始めると思うので、その辺を先生にあらかじめ伝えまして、考えさせていたきたい、間違ってもいいと思います。みんなでワーワーやって、このグループはこのようにします、することにしましたという、その過程がすごく大事だろうと思います。それを繰り返すことで、大人になった時に、きちんと考えられることになればいいのかな。そこには試行錯誤や間違いがあってもそれは仕方ない。そういう考えで、ツールとして今回は造ったので、すごく曖昧に見えるようになっているのですけれども、あえてそういうところを目指したような次第なのです。その点御理解いただいて、あとは、それをどう伝えていくか、学びを伝えていくかになります。その時には、解説の仕方、投げ掛け方、そこは本当に教員に近いテクニックとかスキルが要りますよね。それをプラザの職員なりに、例えば来られる先生方から提示をしてもらえればという思いです。

あとは、時代は変わっていきますので、応用性の効くように、最後まですべてを造り込まないで、その先は応用できるように、物を多く貼れるようにして、問いかけも、例えばペーパーで貼るとか、そのように考えたのですよ。

ですから、おっしゃるとおりなのですけれども、その間のところに、実は考えるということが必要だと思ったことを、ちょっと御理解をいただくと申しますか、そのように考えていただければと思います。

角田氏 先程、申し遅れましたが、北区から来ました角田と申します。今、第4次の札幌市の環境保全協議会の一委員をしています。

環境保全協議会は、非常にかたい会議の場なのです。札幌地球村の皆さんかなり見覚えのある方いらっていますけれども、そちらはざっくばらんとして、非常に明るい会だったのですよね。この場合は、環境問題考える上で、先程黒河さんに20分ほど説明していただいただけでも、非常に厳しい状況だという認識ですが、もっとこの会議自体を明るい希望のあるものに、意志の方向を持つように、和気

あいあいとしませんか。協議会自体はちょっとかた苦しい場で、仕方がないと思いますが、札幌地球村は砕け過ぎているということで、この場合は、その中間、中庸をとって、もうちょっと和気あいあいと、笑顔が見られるような、希望的観測でやっていくといいのではないかと。

それからあと、こちらにピアンカさんもいらっしゃっていただけますけれども、今、地下鉄に乗っていてもバスに乗っていても、黒い方も白い方も黄色い方も見られ、札幌は徐々に国際的都市になってきています。赤い方、黒い方、肌によらず人種によらず民族によらず、国際的な環境プラザを目指して、もう少し遠いビジョンを持ちつつ、認識としては厳しいけれども、意志としては、希望を持って明るくやっていこうという、そういう会議に発展していけばいいと思います。

それから、私ここで、環境プラザのオープニングイベントで、ボルネオより愛を込めてというのに参加させていただいたのですが、その時に、今日はいらっしゃってないのですが、菊田さんという方が……。

私、マイク譲りまして、発言ある方のお話を伺ってから、また再度。

参加者(女性) 子供さんのもっと幅広い参加をというお話が先程あったと思うのですよね。それで、ちょっと思ったのですけれども、展示の例えば解説にしても、そのように、考えさせる、これはこういう問題があるのだけれども、こうすべきなのだよと教えるのではなくて、考えさせるというのは、すごく私も賛成なのですけれども、それは、例えば授業の中ではいいかもしれませんが、私は、環境問題を授業の中の問題としては考えてほしくないのですよ。もっともっと身近な話で、身近に考えなければいけない話で、そうなると、そのような一方的な解説だけではつまらないのです。だからもっと、使い方が一つだけではなくて、いろいろ考えてみてもいいのではないかと。例えば子供たちを呼んで、今日は解説員になってみようと言って、回らせてみたりとか、遊びの要素をもっと取り入れてもいいのではないかなと思いました。

講演とかに親子で参加しているようなグループ、親子で週末に自然で遊んでいるようなグループが結構ちょくちょくあると思うのですが、そのような団体にとって、もっと使いやすくするためには、やっぱり遊びの要素がないとつながっていかないと思うのですよね。済みません、ちょっとまとまらなかったですが。

司会者 いい意見どうもありがとうございます。

展示については、いろいろな意見をいただいています。本当にいろいろな意見を、おしかりもいっぱい受けております。展示について、多分、皆さんご覧になって、いろいろ考えていることはあると思うのですが。どうでしょう、もう少し展示の話で意見がありましたら、いかがですか。

参加者(女性) 先程、角田さんから御紹介がありました札幌地球村の者です。ちょっと砕けてしまうかもしれないのですが。

先程から、お父さんとかお母さんの御意見とか、すごく、なるほどな、そんなすてきなお父さんとかお母さんの気持ちがあるのだなと、聞いていてすごくうれしかったのですけれども、アイデアとか、情報とか、それは市民の方々もたくさん持っていると思うのですよね。それを、こうしてほしいのですが、こうしてほしいのですがと、札幌市さんの方に全部お任せではなくて、自分たちから、こんなアイデアがあるよとか、これをみんなに伝えてほしいということ、情報発信の場という形で捉えて、どんどんどんどん言っていっていいのではないかなと思うのですよね。それが、環境プラザに来てくれた人から、情報を求めている人に広がっていくというか、人と人がどんどん、ここを拠点として広がって、いろいろな情報を得て、環境のことについても、未来の地球のことについ

ても、いろいろの情報を分かち合える場というような形ができていけば、私はすごくうれしいなと思うのですよね。

個人的には全然知らなかった情報も、いろいろなたくさんの観点から見れば、いろいろなアイデアとか、すごく、これは出来そうだとか、これを子供たちに伝えたいというものがどんどん出てくると思うのですよ。それをもっと情報発信という形で、札幌市さんの方でしていただければすごくいいのでないかなと思いました。

司会者 他にございませんか。せっかく来られたので、どうぞ。

参加者(男性) 情報発信という点では、結構、聞いた話では、世界ではどんどん情報を流しているのに、日本だけでは流していない情報が結構あると聞きました。例えば一つの例ですけれども、ダイオキシンというのは母乳に溶けるようで、それで、20何年間かかって100のダイオキシンが母乳に入っていると。それを赤ちゃんに3カ月与えただけで半分が全部移ってしまうとのことで、それがアトピーの原因とか、いろいろな原因になっているということですから、それは、ドイツとか、他の国では、10何年か前に、政府がダイオキシンの発生源となるプラスチックとか、そういったものをもう使わないようにしましよと言っていて、それで、10年間かかって、母乳安全宣言というのを出したのですよね。それまでは、母乳は3カ月、その後はミルクにしてくださいと言っていたのですが、それを、もう安全ですから大丈夫ですとドイツでは行っているのですよね。でも、日本ではそういう情報は何も流されていない。

だから、もっと情報を。日本というのは結構、危険がはっきりしないと情報を流さないという傾向があるのですけれども、それをもっともっと流していただきたいと思います。

司会者 どうもありがとうございます。

他にございますか。

参加者(女性) 2回ほど国際というキーワードが出てきたので、一言。

まず、会議の雰囲気とか、集まりの雰囲気について私も思います。すてきな施設ができたので、さあやろうという、まだその雰囲気になっていないのですね。みんな割と重くて、どうしようという感じのところもまだあります。

ただ、それはこれから変わっていくと思うので、そうなるように、この場がチャンスだと、これをやってみようというような、積極的に。先程もそうおっしゃられていたのですけれども、ここを場所として使おうとか、チャンスとして見て、実験は失敗も含まれるのですけれども、お互いに、やり方は違うけれども、考え方は違うけれども、学び合うとか、それぞれの特徴を生かすようなことができる場所だと思います。

中身とかやり方に関しては、やっぱり札幌だけということになるから、たまに違う町でやってみる、日本の中でも、そして、他の外国も見てみるとか。そのようなチャンスがあると、お互いに刺激を与えるのです。それも積極的にやるといいですね。例えば去年あたりミュンヘンから人が来て、環境プラザというようなところができるのがうらやましくてしょうがないと、ミュンヘンの市民団体の方の意見を聞いたのです。だから、向こうも、ここで何をやっているのか知りたがっているし、逆に向こうにも環境教育のそういう施設があって、例えばプログラムを見てみる、項目だけでも勉強しようという集まりもできるし、インターネットもあるし。そういった意味で、この場所は使えると思います。

私もミュンヘンでさらっとプログラムを見た時に、チョコレートでテーマにした勉強会があって、チョコレートと環境とは一体何なのかと思いました。このために、私は環境の真面目なことをやろう

と思ったのですが、よく見たら、チョコレートから、チョコの豆を作る世界の労働条件とか、そのいろいろなことが勉強になる。だから、後でわかったのですけれども、何でチョコレートとかを選ぶのかというのは、やっぱりみんな楽しいことをやりたい、おいしいことをやりたいと。問題を勉強するとか、危機感とか、それよりは楽しい思いをしたいとか、楽しいという部分を入れておかないと、いつまでも暗い話で、環境、これほどいいことなのに何か暗いイメージがついている。楽しいことやっていいよとか、真面目に考えさせるとか、プログラムの中身は広く考えてもいいと思うのです。地球温暖化の計算とか、それ以外にもたくさんあります。だから、壁を越えて、例えば姉妹都市交流を利用して、お互いにアイデアを投げかけるといことは、私もこの場所でそんなことができたらいいなと思います。私にできる部分をやりたいと思っています。

参加者(女性) 私、とても環境というのが大事だということがわかってから、私も何かできると思って、町内会に入って、こんなことを伝えたい、あんなことを伝えたいと思ってやったのですけれども、なかなか思うように進まないのです。それで、こんなすてきなところができて。展示物を1人で見た時にはそんなにわからなかったのですけれども、今日説明を聞いてみたら、とても深いことまで考えてやってくれたのだと、とてもうれしかったのです。毛皮を見て、だれかに譲れと言うのかな、それぐらいかなと思ったのだけれども、毛皮を作るといこと、それを着ることがどういうことか、そこまで考えていて、すごいなと思って、とても感心しました。

それから、ここへ集まってくる方というのが、何となく町内会を相手にしていると、空の上で意見があちこち、行ったり来たりしているみたいな感じが、私には受けるのです。私は、もっともっと市民の中に溶け込まなければ伝わらないのではないかなという気がとてもします。実際に町内会の活動の中にこれが入ってきたら、ものすごい勢いでつながっていくのではないかと思うのです。火の着き方は早いので、なるべく私は、ここへ来ていただいて、あの展示物を見ていただいて、ここでやっている講演を聞くことが、すごく早いなと思ったのです。それをどのような形で市民を引きずり出してくるのか、一つ案なのですけれども、各町内会あたりで研修会なんかがよく行われます。それが1日ばかりでやっても、温泉旅行で、御飯を食べて、はい、研修会終わりというのが今までです。その1時間、2時間を利用して、ここへ寄ってここで見学した後で温泉に入ろうよと、おいしいえさをたくさんまいて。プラザの方にも、たくさん、こういったイベントをやるから、やりましようよみたいな形で引っ張っていったらもっと成功するのではないかと思うのですが。よろしく願います。

司会者 ありがとうございます。

今、研修会の話が出ましたけれども、実はアクションプログラムの中で、研修会、環境マラソン講座というものを予定しています。正しい情報を、先程も御提案ございましたけれども、情報をもっと出さないとだめだと。正しい情報をきちんと広く伝えなさいという御趣旨だと思うのですけれども、環境マラソン講座では、もちろんこの場所を使って、うちの部長に言わせると、毎日講座を開きなさいと。そして、市民に広く情報を出してくださいという取り組みをします。もちろんその他に、ここだけではなくて、出前講座といいまして、要求があれば企業や町内会に出かけて講座をするということもします。

それから、先程、話が出ていましたけれども、環境総合講座ということで定期的に講座を組んでいきます。それと、この前、松本さんに来てもらって、お話をさせていただきましたけれども、外部のかなり専門的な方に来ていただいて、講座を設けるといった取り組みをぜひやっていきたいと考えています。

御意見，いかがですか。

ここで，説明が逸れていました，さっぽろ・ストップ・ザ温暖化キャンペーンについての説明をさせていただきます。

事務局 さっぽろ・ストップ・ザ温暖化キャンペーンについてお話しします。その位置付けといいですか，全体像なのですけれども，先程，部長から話もありましたが，上田新市長が大変高い二酸化炭素の削減目標を掲げました。我々としては，それととにかく，その目標自体がいかに高いものであるかということの説明するのではなく，そんな暇があったら，とにかく何かできることをやろうという，そういう方針で，とにかく何ができるかをすべて洗い出してみました。プレーンストーミングのようなことをしました。ただ，役所の人間だけなので，考えられる範囲は限定されているのですが。これは後で課長の方から詳細を説明いたしますけれども，たくさんの企画の中で，その一つを先駆けに，さっぽろ・ストップ・ザ温暖化キャンペーンというのを位置づけようかなと思っています。今年の後半にかけてそれを行っていこうと考えています。

内容としましては，一つは，キャンペーンですから，このような二酸化炭素削減に向けた札幌市の姿勢を示しまして，皆さんに協力というか，皆さんの行動を喚起すると。札幌市はやる気だと。先程，世界の状況はこのようになっていて，日本は情報を公開しない国だと言っていましたけれども，そうではなくて，札幌市がまず先頭に立って取り組んでいきたい，そういった姿勢を示すためのキャンペーンをまずしよう。そこから始めようというのが，このキャンペーンのうちの前半の部分です。ですから，キャンペーンの内容として，具体的に何をやるかというのは，これから皆さんのお知恵を借りたり，様々な意見を聞きながら決めていくのですけれども，もちろんキャッチコピーを作ったり，各種媒体の広報をしたり，キャンペーンするということ，そんなイメージです。あるいは市長自身が先頭に立って，それをアピールするとか，いろいろな方法は考えられますけれども，とにかく札幌市はその目標に向かっていくのだと姿勢を示すことをまず始めようというのが始点なのです。

それともう一つ，お手元の資料の後段の方です。まず，そういうキャンペーンを行って，札幌市の姿勢を示すと同時に，並行して皆さんが参加できるものをツールとして提供することがやはり必要であろうと考えました。それが，お手元にあるweb版環境家計簿です。環境家計簿は多くの自治体，様々な団体，いろいろなところが作っていて，それなりに普及はしているのですが，見向きもしない人は見向きもしません。常にそういう宿命にさらされておりますけれども，これをweb版で行います。インターネット利用可能な環境は今50%とかと言われているのですけれども，インターネットが利用できる環境にない人も何とか参加できるように配慮して，簡単であり，かつ楽しめて，それから，もちろん勉強になるというような，それらを目標に現在構築しているのが，web版環境家計簿です。これは，地球村さんの全国版環境家計簿のお力も借りております。

そのページは，札幌市環境プラザのホームページから入っていきます。そしてそこから札幌市バージョンの画面がずっと続きます。全体の集計として，地球村さんが全国レベルでやっておられます環境家計簿の二酸化炭素削減率を出して，全国の中における札幌市の位置がどの位置にあるのかもわかります。もう一つの特徴は，グループで登録できるということです。まずは個人で登録し，その人が，あるAという会社の社員であるとか，Bという小学校のPTAであるとか，Cという町内会の会員であるとかの属性を後から入れることによって，そのグループの取り組みが札幌市内でどのぐらいの位置にあるのか，第何位になっているのか等，そういったゲーム性や競争感覚を持たせたようなものを作ろうと思っています。温暖化対策に取り組むという宣言と同時に，まずこういう形で皆さんも参

加できるものがありますよ、まずこれに参加してみませんか。そういったキャンペーンを行いたいと思っています。これ以外には、延々と39本の事業が予定されており、その先駆けとして、このようなキャンペーンを今年度事業としてやっていきたいと考えております。

そしてその先でも、いろいろな事業をとっかえひっかえ、皆さんが飽きないにうちに行っていきたいと思っています。

司会者 続けて、まだ私ども市役所の中でも知らない人もたくさんおりますが、本邦初公開のアクションプログラムの一部を御披露したいと思います。

まず、まちづくり計画というのが3年間で予定されています。その中で、二酸化炭素削減をプログラム化したものですが、16年度、来年度ですけれども、キャッチコピーで、「札幌で何かが始まった」という、何か始まったことがわかるような動きをしたいと思います。17年度に「札幌は動き出した」、18年度、3カ年の最後には、「札幌の動きは本物だ」という、ムーブメントを感じるようなウェーブを、流れをつくっていききたい。

その中で、今紹介ありましたweb版の環境家計簿では10万人を目指そうと。その他に、「札幌エコライフ宣言」をしていこうと思っています。それは、自分にとってエコライフとはどういうものを提示して、私はエコライフだ、エコライフ人だということを宣言していただく、そういった事業です。それから、「エコドライブ宣言」。このエコドライブ宣言というのは、もう御承知だと思いますけれども、私はエコドライブをしますと宣言していただきます。両方とも10万人を目標にしています。札幌市は人口180万人ですので、この3年間で10万人に宣言をしていただければと。それと世帯数で約15%を期待しています。そうすると、少しウェーブができていくのではないかと期待しています。先程、御紹介しました環境マラソン講座もその中の一つのプログラムです。

それと、先程から、楽しみながらやろうと。暗い顔してやってもだめだよという御指摘ですが、タウン誌がございませぬ、よく街中で配っているタウン誌等に、環境の情報を載せていく企画をやったらどうか。どうも役所のパンフレットはさっぱりおもしろくないので、なかなか効果がないとのことで、タウン誌を使ったらどうかという企画。

それから、一つのイベントですが、このまま実現するかどうかかわからないですけれども、例えば札幌環境ウルトラクイズというものを、ドーム等で、テレビ局とタイアップしてやると。そうすると、かなり知的的好奇心というのですか、環境への好奇心を誘うような、楽しみながら環境の情報が入っていくような企画を考えています。

それから、こどもエコクラブの支援や、あと、札幌市で10%削減することを市長が宣言しているわけですけれども、市役所はどうしたらいいか。市民の皆さんに10%お願いしているのであれば、市役所は20%やりましょうと。20%削減できるかどうかというのはまだ定量的には考えてはいないのですけれども、20%削減作戦というのを市役所の中で展開していこうと。これは一例で、それがすべてできるかどうかというのは、まだこれからで、財政査定等を受けていかなければいけない内容なのですが、そのようなプログラムを今、39本用意して、一つ大きなウェーブという、波をつくっていききたいということを考えております。

最後に、役所の人間だけ考えてもだめだということで、最後の39番目のメニューとして、皆さんから環境行動メニューのアイデアを募集しましょうと。それには、助成金をつけます。どのくらいなるかは決まっていますが、例えば5万円くらいをグループに出すことにして、アイデアを広く公募して、出された企画案を書類審査して、例えば発表会で発表していただくとか、そして、その中でも

優れたものについては施策として実行していくというような、広くアイデア募集をやろうというメニューも用意しています。冒頭で部長のあいさつの中にございましたけれども、今年中に募集を始めていきたいと思っています。準備ができればホームページ等で応募を始めていきたいと考えています。

ざっとですけれども、今説明しましたように、二酸化炭素を削減する大きなウェーブを起こしたいという札幌市の姿勢は多分理解していただけたのではないかと思いますのですけれども、これについて、御意見をいただければと思います。

参加者(女性) 余り活気がないとか、そのようなことをおっしゃるのですけれども、1日仕事をしてきて、晩御飯も食べずにここに来て、元気が出ると言ったら、なかなかすごいと思うのですね。例えばお子さんがいる方とかはなかなか出てこられないという感じだし、いつも夜ばかり、このような感じで、みんなの意見を聞いてくるのはなかなか難しいかなと思うのですね。

それです、なぜあまり元気にいろいろなことが言えないのかということ、自分が置かれているポジションがわからないということがあります。ここで、15年度は業務や運営組織等において、市民と市で共通認識を持ちたいというのがあるのだけれども、ごく限られた人が市と共通認識を持つ、市の方からいけば、こんなことを考えている人がいるのだというリサーチにはなるだろうけれども、市民との共通認識というのではちょっと違うのかなというのがあるのですね。ですから、これが今年度どのように進んでいくのかがよくわからなくて、それが3年間続いて、どのような形でこれから環境プラザがみんなにとって本当にいい器になっていくか、道具になっていくかがなかなか見えてこないの、どこでどう力を入れたらいいかわからないというところがあるのですね。

ですから、まず一番今聞きたいのは、今年度の予定、これから先どのようになっていくのかというのが知りたいというのがあります。

それからもう一つ、今回、展示物とか、それから、今の39の事業で、39番目が、市民にアイデア募集というお話があったのですけれども、今回のいろいろな展示にしても、とてもすばらしいのだけれども、だけれども、何か変り様がないというか、私たちはどう関われるのだろうかというところがあるわけなのです。先程、すごくいいアイデアで、子供たちが来て解説していくとか、確かに、それを使ってというのはあるのだけれども、ちゃちだったら、もっとこうしたらとかもっと手が出せたのに、あれだけすごいのがボンと出来てしまったら、どう手を出していいかわからないというところがあります。

その点と、今回の39番目には参加できるけれども、それ以外は、一生懸命大変な部分を市の方でやっていかれる。大変だろうけれども、大変なことというのは、やったらやったという実感が出てくるのですよね。その中に自分が参加できるといっても、エコライフやりますとか、宣言するとか、エコドライブ宣言しますとかというのでは、なんか達成感というのはそんなに味わえないかなと。だからそういうしんどいところに、もっと市民や市民団体が参加できるような中身をもう少し用意して下さったらうれしかったなというのがあるのですね。

今回の、予算がついた事業というのもあるのですけれども、これもやはり市がやられる事業だし、もう少し一緒に市民と組みながらやるプロジェクトがあってもいいかな。試験的にやってみて、ここがまずかったとかといって、そこを直していけるようなモデル的なようなものが、もっといろいろなところで、お金はそんなにかからなくてもできるようなことがあると思うのですね。そういうところをもうちょっとやってもらえたら、一緒にやっているなという気がしてくるのかなという気がします。

だから、札幌市の人はとても優秀な方が多いし、本当に優秀な方が多いから、いろいろなことが、

立派なことが考えられるけれども、出来過ぎてしまっている。普通の人になかなか入っていけないというところがあって、もう少し馬鹿なふりをしてもらった方がうれしいかなという気がします。

ということで、何かごちゃごちゃ言いましたけれども、結局、今年度の予定というのを教えてください。

司会者 一つ、行っている施策というのは、すべて、市民が参加できる、参加をすることを前提として考えていますので、市が出して、市民にそれをするということだけではないので、それだけは御理解していただきたいと思います。

メニューの中に、今言ったようにいろいろな層の方、すごく熱心な方もおられますし、環境になかなか入ってこられない人たちもいる。そういった様々な層をターゲットとして当たっていく必要があり、施策を選択しているつもりでいます。ですから、いろいろな参加の場面が、今のお話の中ではあるかと思いますが。

あと、今年の施策については、先程のプラザ事業と、ストップ・ザ温暖化キャンペーンの話が、今年用意している施策の主なものになります。

原田部長 先程、今年度後半にやりますと言った事業は、実はもともと札幌市が行っていた事業なのですよね。実はこのプラザを動かしていくのに、今、直営という形で市の職員が来てやっていますけれども、実は1人も人は増えていないのです。どうここでやろうかという時に、今までの仕事も持ってここに来て、それで、新しい事業もあります。人を増やしてください、でも今は市の職員は増やせない、では、臨時職員でいいからつけてください。それも実は思ったとおりつけられていないという状況なのです。でも、今やろうとする時に、持ってきた市の事業はどうしてもやっていかなければなりません。

それから、今、二酸化炭素の削減を上田市長が公約に掲げており、優先度が高い事業ということで、我々もアクションプログラムとしてやっていますけれども、実はここは環境プラザですから、そういった意味では、環境保全活動であれば何でもありの場所なのです。

実は、二酸化炭素の削減の他に、今、2年がかりでつくった水環境計画というようなものもあります。地域に入って行って、どのような生物がいて、このようなところは守りたいねとか、このようにしたいねということも、活動しましょうという話もあるわけです。

それで、ここは市民活動の場ですから、市がこういうメニューを用意して、これをやってくださいということではなくて、この中でこういったことをやりたいというアイデアをどんどん出してほしいのですよ。できるものは、それをやっていけばいい話ですから。ですから、こちらが固定しているわけではなくて、今たまたま今年度持ってきた事業で、このように考えていますという話をしているだけであって、これだけやりましょうということを言っているわけではありません。

それから、先程、二酸化炭素削減のアクションプログラム、39の事業を言いましたが、それは、実はアイデアとして、このようなことをやったらいいのではないかと我々が考えたということであって、実際に中身をやる時には、例えば先程、環境ウルトラクイズの話が出ましたけれども、それは元のアイデアです。では、やろうとしたら、どのようにしたらおもしろくできるのか、この懇談会のような場でどんどんどんどんアイデアをいただいて、広げていけるものだと思うのですよね。市だけで考えたって全然おもしろくないわけで、何でもありで広げていければという思いでいます。

だから、市がこうやりますということではなくて、一つの考え方はありますけれども、これができますねというものは出て、形にしてやっていくことができるといいなと思っています。

参加者(女性) すごく誤解される言い方を申し上げますと、このweb家計簿は地球村さんがなさって、いわゆるゲーム感覚でみんながやろうとするから、ゲームを楽しむ感覚でできるからこれを取り入れるのか、地球村さんがやった結果、このように環境に対する意識が盛り上がったからやろうとしたのか、ちょっとその辺が私には…。入ろうとするきっかけ、市民の気持ちの中に、できるかなというか、やろうかなという気持ちが起こるかどうかを知りたいのですけれども。

事務局 地球村さんへのお問い合わせかと思えますけれども、まず、市の立場から、これをやろうとした考え方を申し上げます。地球村さんも後からお答えいただいても構わないのですが。

環境家計簿というのは、確かにこのような環境配慮行動を市民の方に定着させるためのツールとしては非常に優れていますけれども、いかにせん、やる人は非常に熱心にするのですが、やらない人は何もやらない。これは、web版なっても同じだというお考えもあるでしょうけれども、ただ、それはなぜなのだろうと我々は考えたわけなのです。一つは、面倒くさかったから、ややこしいからだろうと。一つは、おもしろくないからだろうと。そのややこしいとおもしろくないのを何とか解消できる方法はないかと考えるわけです。

それで、地球村さんがつくっておられる全国版環境家計簿に、一つの啓示を与えてもらいました。ランキングという発想は環境家計簿にはなかったなと。つまり、地道に熱心な人が取り組んで、自分の中で完結して、自分で二酸化炭素をこれだけ削減した、お金としてはこれだけ節約できた、よかったです、自己完結。自己完結で、それをモチベーションにできる人は、それはすばらしいとは思いますが、なかなかそういった方もおられません。地球村さんのものを見ると、地球村さんの方もまだまだ参加者も少ないし、完成されているものでは全然ないと私も思いますけれども、ああいったランキングでそれぞれの、自分個人の活動もそうですし、自分の属する属性、グループを巻き込みながら、先導しながら、そういった環境配慮行動を盛り上げていける、先程からウェーブという言葉が何回か出てきているのですけれども、二酸化炭素排出量の10%削減を3年間で達成しようと思ったら、個人がちまちまやっても絶対できないと思うのです。ウェーブという言葉が絶対キーワードだと思います。そのウェーブを起こすためのことをいろいろ積み重ねてやっていかなくてはならないと。それを考えた時、何かないかといろいろ考えているうちに、地球村さんのものを使わせてもらおうと。あくまで札幌市の事業ですから、札幌市の窓口を通して、札幌市民が、自分たちが日本中、世界中に誇れる環境都市を目指し、今どの位置にいるかとか、構成しているそれぞれの属性のグループが町内会であったりPTAであったり、そういったグループや個々の取り組みが、先月より今月、今月より来月、少しずつでも結果が目に見えるようなものがあったら、動機というか、今までおもしろくなくてできなかった、面倒くさくてできなかったという問題を何とかつづせる可能性がもしかしたらあるのではないかと。そういった発想で、今回提携させていただきました。これはまだうまくいくかどうかわかりませんが、やりようだと思います。

片やでは、また別に様々なものを提供しながら、もしも何か感じた方には、このweb版環境家計簿に参加してくださいとか、先程のエコライフ10万人宣言に手を挙げてくださいとか、エコドライブ宣言をしてくださいとか、いろいろなメニューが有機的につながれば、結果として波が、うねりが起こる。そうすると、札幌市民はちょっと鼻が高くなると。鼻が高くなるというのは、他の自治体とは違うよという感じになって、それが、石が転がるように転がっていけば、もしかしたら、新市長の言う4年間で10%削減というのも、可能性としてはあるのではないかと。

しつこくなりますけれども、そういった個人の行動と、社会の仕組みというのが、両方変わらない

と絶対無理だと思うのです。ヨーロッパの先進国というのは、個人の試みが社会の仕組みに消化していったという過程があると思います。その社会の仕組みの変化のレベルまで個人の取り組み、もちろん役所の地道な取り組みもそうですけれども、それがつながっていけるようなことを目指しているのです。そのために、よくわかっていないが手探りでいろいろなことをやっていかななくてはならないという、そういった発想で、これからやろうとしている事業なのです。うまくいくかどうかは、もちろん我々の努力もそうですし、皆さんの協力、お知恵を拝借しなければならないのは当然だと思っています。自分たちだけでできるなんて全然思っていません。助けてください。これはお願いでございます。

参加者(女性) すごくおっしゃることはわかるのです。だから今、市民の知恵で何とか、そういうものを感じさせるために、別にニンジンぶら下げなさいとは言わないけれども、広報で、例えばこの家庭が10%削減を達成したよとか、お名前を発表するとか。何かそういうようなことを、達成感というのが、自分だけではなくて、だれかにわかってもらえるというか、そういったことに喜びを感じるために、喜びを感じると言ったら語弊があるかもしれないけれども、何かないと、町内会とかこの団体、一部の人がただやるというところに終わるというか、やり方がどうかではなくて、すごくいいことだと思うけれども、もっともっと、次元が低いかもしれないのですが、取っかかりが何かないと、普通の人は環境家計簿をつけてみて、それでランキングが上位になったから何なのというところで止まってしまうかなという気がすごくしたものですから、何かもうちょっとプラスアルファというか、何か視点を変えていけないかなと思ったのですよ。

子供たちがゲームをやって、1位になったぞとかと、すぐ結果が見えるものを、今の子は特に望む時代だから、そういったものがある程度先が見えてくるというものも必要かなと思ったり、私もよく言えないのですけれども、自分ならやらないのではないかなと。インターネットができる環境にいますが、すごく消極的だけれども、やるかなーというのがあるのですよね。

事務局 言われていることはよくわかりますよね。そんな面倒くさいことを本当にやるのかどうかは確かにあると思います。これ一つだけだと私もだめだと思えます。だから、今言ったような複合的な施策と今の話がリンクしていかないと。そのように、その人たちの少しずつ意識を改革していけば、そこに飛び込んでこれる人もだんだん増えていくと思うのですよね。もちろん、今意見の中にありましたように、見せ方がすごく大事だと思うのです。せっかくみんながやっているものですので、ただランキングだけではなく、私はこうやったとか、例えば1年2組と1年3組と比べてどっちが勝ったとか、そういった見せ方を工夫することで、何も主婦だけが家計簿を書くわけではなくて、子供も含めて関心を持ってもらうことを期待しています。今言われたように、むしろ皆さんから、こうしたらもっと参加してもらえないかというアイデアを出していただいて、それで、一つの大きなウェーブを起こす。何かやっていたかなければ進まないの、ただ、それは難しいからできないと、そこで終わってしまったらウェーブは絶対起きません。ウェーブを起こすための一つ、たくさんあるツールの中の一つと考えて、何とか、先程、島崎からもお話ありましたけれども、何とかやってみませんかというのが私たちの考えなのですよね。確かに、おっしゃっていることはよく理解できます。本当にこんな面倒くさいことを10万人もやるのというのは、非常によく理解できますけれども。

参加者(女性) 家計簿を否定するのではなくて、もっと何かすごくありそうな気がして、出てこないのにこんなことを言うと……………。

参加者(女性) もっともです。そう思います。それで、だからこそグリーンコーシューマーという方

たち、環境に関心を持っている方たちが、いまだ日本では1%だと思うのです。でも、今日こうやって雨の中、御飯も食べずに、子供を置いて出てくる人たちが集まってきているのですから、この人たちから広めるといふのかな、今、地球が大変になっていて、将来の子供たちに手渡していけるかわからないから、私たち大人が今やろうよという呼びかけを、この30名ぐらいの中から発信していけばいいのではないかと思うのです。私たちの取り組みもそうすることでしか広まっていけないと思うのです。ですけれども、ただ面倒くさいからではなくて、そういったものを自分から発信してほしいなと思うのです。

ただ、面倒くさいという話がありましたけれども、これはすごく簡単です。ただ、今までの環境家計簿というのは、自分で計算してつけていかなければいけなかったのですけれども、これは、ただ料金とワット数、それをただ入れ込むだけで、全部面倒くさい計算は機械がやってくれますので、それで、毎月毎月それを入れるだけで自分のランキングがわかりますし、そのランキングだけではなくて、全国ネットという点もあります。全国の参加した方々が、こうしたらすごくうまくいったよとか、すごく削減できたよというアイデアをそこで募集して、掲示板のようになっています。それで、自分一人でコツコツとつけていたものが、自分だけのものではなくて、自分もこういうふうにとしたらすごくよかったよということも、全国の方たちとも分かち合いながら、全国の人たちに教えてあげることのできるのです。これは札幌市のことなので、札幌の人たちに教えて、みんなでやっていきましょうという、一つのツールになっていけばいいなと思います。

それで、二酸化炭素を削減するにはどうするかわからない、取っかかりがないと思っても、まずはこれに参加してみて、全国でどういったことをやっているのか、どのような関心を持った方がいるのかのぞいてみるのもいいことだと思います。とても楽しく展開していくメニューになっていますので、本当にゲーム感覚というか、かわいいペンギンさんが出てきたり、少しでも削減できたら「やったね」とかと言ってくれたり、すごくかわいらしい感じで展開していくようになっています。すごく簡単に、子供さんも取り組めると思います。

欲を言えば、こういう環境家計簿も学校等で入っていただいて、子供たちが関心を持って、パソコンの練習をするのにも使っていただいたりとか、そういった可能性というのはとてもあると思いますので、雨の中来てくださったこの中の人たちから始めていただければと思います。

原田部長 先程、どのくらい危機的な状況にあるのかというようなお話も出ましたが、何で行動が起きないのかということをお我々が考えた時に、今、環境がすごく大変だという危機意識がない、どうしていいかわからない、やりたいと思う刺激がない、大きくはこの三つで考えたのです。

それから、とりあえずは、すごく危ないのだと、すぐ行動を起こさなければいけないのだという危機意識を持ってもらうために、毎日のように札幌では、そのようなことを伝える環境講座をやっていきましょうというのが一つなのです。

それから、どのようなことをやればいいのかをわかりやすく教えるような、どうすればいいかという行動指針みたいなものもつくっていきましょう。

それから、とりあえず、わかりやすく、まず、このようなキャンペーンをやりましょう。

まず、危機意識を持って行動を起こしてもらいましょうというのが一番初めなのですが、ただ、先に札幌市民にエコライフ宣言等が広がっていくためには、もう少し、市民文化になっていかなければいけない。もっとおもしろかったり、やってみたいと思わせて広げていかなければ、広がりが持てないとか、そういったことをいろいろと我々の中で考え、実はプログラムが39本と言ったのは、こ

んなことをやったらいいのではないかというものなのです。

ただそれは、イメージで持っているだけです。具体的にどうするかというのは、皆さんのアイデアをいただかないと広がっていかないのですよね。それをやっていきたいと思っているのです。

それから、まずは、本当にやってもらわないと始まらないのです。それで、さっき、例えば町内会という話がありましたけれども、札幌市は10区ありますから、区がそういった地域に入って行って広げるというやり方もありますし、それから、皆さんそれぞれNPOであったり、市民活動グループであったりと、そういったところに属されている方がいますよね。そういったところをお願いをして、やってみましょうよと話をしたり、こうやって集まってくれる人に1人ずつ、やりましょうと声をかけていただく、いろいろな重層的なことをやっていかないと動いていかないと思うのです。

ともかく、一番初め、そこから動いて、その後もっと広げるためには、こうしたらおもしろく広がっていくのではないかというようなことをつなげていきたいと思っているのです。

先程アクションプログラムという話をしましたけれども、それは、今我々がアイデアとして持って、明日市長にお話ししますけれども、それが札幌市の組織としてできるようになるかどうかというのはまだ僕らもわからないのです。そうなったら、どんどんどんどん一緒にやっていきたいと、お話をしたいと思っています。我々もやりたいと思って期待していますが、それはもうちょっと待ってください。

参加者（アクションプログラムに関する意見）

原田部長 実は、札幌市が上田市市長になられてから、従来やられていかなかったやり方を、市長が提案して、やっているのですね。それは、市長は公約で掲げている、まず、重点的にやるべき事業についての話を聞いて、それをまず認知したいという考え方を持っているのです。そのために、プレビューという格好で、まず事業についての話を聞きたい。我々は環境局ですが、環境局は明日、今の話をします。

ただし、プログラムを39本やるということは、経費がすごくかかるということです。それだけ職員がつかなければできないということなのです。それは、市長がやりたいと思っても、どこかで経費を削らなければなりません。職員をつけるということは、どこかの職員を削らなければいけないということですから、では、本当に組織的にそうできるのだろうかということも、今度は現実の話として出てくるわけです。それは、経費であれば予算として認められればという話になりますし、人であれば、機構改革の形で認められるかということが次に出てくるわけです。そこがはっきり見えないと、はい、やりますとは我々も言えないのですね。

ただ、それがどこで見えてくるのかな。今までの予算の関係でいけば、年明けてという話になるのですけれども、今回については今は何とも言えないのです。

参加者(男性) 二酸化炭素10%削減ということですがけれども、ほとんどの人は、10%削減してどうだったと思うのではないか。結局、京都議定書の関連なのかもしれませんが、10%削減したことによって、地球に対してどれだけいいことをしたかがわかるようにしないと、やる方は何もアクションは起こさないと思うのですよね。だから、具体的にそういったアクションを起こした人が、どれだけ地球に対していいことをしたのかを認識してもらえるようなものが必要だと思うのですよね。

例えば地球温暖化、10年後は地球全体で2℃上昇しますと。2℃といたら、一番暑いところ、赤道の方はあまり上がらなくて、0℃。日本は5℃ぐらい上がって、極の方は10℃ぐらい上がると

か。そう言われていますけれども、5 上がるところを、これは例えばですけれども、このように10%削減することによって、2 とか1 とか、気温が上がることを食い止めたよと。それが、気温がどんどん上がったら、南極大陸とかいろいろなところで、水面が50センチとか1メートルとか上がると言われていますが、ただ1メートル上がっただけで、ほとんどの地下水が飲めなくなるという状況になる。それを、これをするによって、具体的には言えないかもしれませんが、こういったことを食い止めるということ、ある程度そういったことがないと、なかなか皆さんやっていけないのではないかと思うのですよ。

原田部長 むしろ、今のままだとだめですよと、そういうことなのですね。ISO14001を御存じですよ。市長が変わったので、新しい環境方針を出します。実はこの間、市長がその全文を、これでやりますと決めたのですけれども、とてもその危機意識が明解に出ています。今、日本は食糧自給率が30%を切っていますよね、穀物自給率で。

今、100年後には、下手したら6 ぐらい上がると。そうすると、海水面が上がって、平野部がやられますよね。そうした時、食糧危機が来ると言われています。そうすると、今の世界の穀物自給率で見ると、オーストラリアが一番多く、2番目がフランス、それで、200ありません。190くらいの自給率ですね。下手すると食糧の生産量が半減すると言われてますから、そうすると、日本はお金を出しても買えなくなってしまうことがあるわけです。そうすると、食べ物が食べられませんということが起きますね。

それと、温暖化。何となく北海道にいと、暖かくなってイメージ的に悪くはないのだけれども、実は温暖化というのは気候変動が問題なのですね。現実に、国連が指摘していますよね、かなり危ないと。もう温暖化対策は手遅れだとまで言っているわけです。気候変動、異常気象の話は、ヨーロッパを見たって、昨年、あーいった記録的な大洪水があって、今年は熱波で1万人以上死ぬということが起きていますよね。そういったことがいたるところで起きていて、10年以内にこれが一気に加速するということを言われている方もいます。

ですから、実際に、市長の意識も、このままで行くと、我々もしくは次の世代が生存できないかもしれないという意識なのですね。だから、そのくらい危ないということを伝えていくこと、危機意識を持ってもらうというのは、そういうことだと思うのです。本当に毎日のようにどこかで伝えていくことを考えていかなければいけないというのが、先程の講座の意味なのです。

それが動いていった時に、どう改善されるかというのは結果の話ですから。ただ、それをやらないと、このままの生活はできません、生き残れませんという、それだけの危機意識を持つ必要があることを、まず伝えていかなければいけないと思っています。

伊藤氏 環境対策課の伊藤と申します。プラザは、環境活動推進課という方で、部長と課長、皆さんでやっていらっしゃるのですけれども、私は隣の課で、毎日、作業服を着て、騒音や悪臭の現場で様々な調査をしたり、事業者さんと話し合うような立場にいます。

それで、身内なので意見するのめどうかと思ったのですが、せっかく出席したのでお話しさせてもらおうと。私は今年から大気騒音係にいますが、隣の係は環境対策係といって、先程お話が出ましたけれども、ISO関係のこともやっています。先程、二酸化炭素削減というお話も出ましたが、ISOを取るために事業所の方が届け出をするのですが、その際に、アイドリングストップをして、実際にガソリンの使用が減ってコストが安くなってすごくよかったよとか、そんな話も出てきているのですよね。ですから、二酸化炭素排出量の削減という時に、市民と行政というのももちろんいいの

ですけれども、例えば講演までもしなくてもいいと思いますが、うちでは、環境にはこうした取り組みをしてみたというように、会社の方にも話を伺う機会があってもいいのではないかと思います。

この環境講座の方も、ちょっと見せてもらったのですけれども、結構大学の先生とかが多いですね。確かに専門的な知識はあると思うのですけれども、やはり距離を感じるといいますか、上からものを言われても、自分からやろうという気になれないというところもあると思うのですよね。ですから、こういう場を利用して、企業の方とか、もう少しバランスよく、いろいろな方が話してくれるといいと思います。

それで、私も去年まで民間会社で働いておりましたので、行政と市民レベルの温度差は何となくわかるのですが、優秀とかとおっしゃっていましたが、部長も課長も、みんないろいろお話を聞きながら、頑張ってやっていこうとおっしゃっていますので、前向きに考えていけたらいいかなと思います。

角田氏 まず、今日これだけ集まれたということを、私、第1回目、これで3回目ですよ。私、2回目出遅れて参加できなかったのですが。1回目の時に私、傍聴していたのですけれども、けんけんごうごうとした感じで、行き先どうなるのかなと思っていました。2回目出遅れて、こうして3回目出てきますと、これだけの顔ぶれが集まっていることは、まず評価できるのではないかなと思います。

それとあと、原田部長さんが、市の職員の立場から、これだけ差し迫った危機感を持って語られたというのは非常に勇気のある御発言だと思って、真摯に受けとめています。できることなら小泉首相にもお伝えしたいくらいなのですが、本当に、まずこうして集まれたことから評価して行って、できるだけわかりやすい言葉で、私の頭脳なんて中学生並みで。これは謙遜して言っているわけではなくて、日本の小中学生で勉強する9割のレベルの学力をマスターしていればすごいことなのです、世界的に見ればすごい知識量なのです。ですから、義務教育を終えられた方全員に理解できるような共通語で、わかりやすい言葉で、できるだけ皆さん話し合っていくと、もっと多くの方の参加が得られるのではないかと、賛同が得られるのではないかと思います。

それと、ここに来たからには、女性、男性、大体半々ぐらいいらっしゃいますから、もっと遠い先を見れば、Lプラザということ自体が全部環境問題なのです、男女共同参画センターもありますけれども、全部関わってくる、横断的な問題でありますから。そんなことで、来た以上は必ず一言発言して帰るという意識を持っています。わかりやすい言葉で、横文字、難しい言葉を使わないで、市役所の方、部長さんも課長さんも、もう少し噛み砕いて、私にもわかるように、ひとつお願いしたいと思います。

以上です。

司会者 大分時間も押してきていますけれども、坂さん、最後に何か御発言ございませんか。

坂氏 一番聞きたかったのは、15年度は、業務や運営組織において市民と市で環境プラザの運営について共通認識を持ちたいということで、懇談会の2回目ですよ。あと何回ぐらい行われて、どういう感じでまとめて、次に進むのかというのが知りたいのですけれども。

司会者 懇談会をどのようにやっていこうかというお話をした時に、月に1回ぐらい、この懇談会を開催していきましょと。ただこれは、自由参加で、自由に発言されていますが、これが、何か決議を持つということは難しいのではないかと。

実は、最終的にどうあるべきか、運営委員会をつくってやっていきなさいという提言をいただいて

います。ですから、最終的には、今やっている懇談会の意見を、そういった運営委員会のようなところの意見に結びつくようにしていけたらと考えています。

参加者 運営委員会とはどのようなものなのでしょうか？

司会者 運営委員会というのは、具体的にだれがどうするということの約束事はないのですが、例えば市民だとか市だとか企業だとか、そういった人たちが集まって、このプラザをどうやって運営していこうかという、そういった運営組織と考えていただいてもいいと思います。

参加者 運営委員会はいつ発足するのでしょうか？

司会者 まだそこまでは、この懇談会の熟度もあるかと思えますけれども、どういう意見が出てくるかということも含めて、その時期については、いつとは明確には考えていませんが、冒頭から話していますように、3年で今の運営の仕方を変えていきたいということは私たちの意思ですので、そこで変えていくためには、運営委員会なり、次の形をいつつくっていくのかがお話になるかと思えます。

最後に言おうと思ったのですが、今、ただ漠然とこういうお話をしているのですが、次回からは、かなり運営に絞って意見を、話をできたらと考えています。

参加者(女性) 個人的に、どうしてもわからないのは、この懇談会の方向。だれが来てもいいです、だれが来てもいいというのは、いいことだと思うのだけれども、同じ人がずっと継続して話を積み重ねていくのではないという、市の方たちは常に同じ人たちだけれども、こちらに来る方たちは、初めて来ましたとか、いろいろな人たちがいる中で、どう話を積み重ねていくことができるのかというのが、やっぱりストーンと落ちないのですよね。そこでうまく具合に、さっき熟度とおっしゃったけれども、新しい人、いろいろな方が関わりながら、どう熟していくのかというのが見えてこない。やられていることはとてもすばらしいし、新しいかなと。そういうことができたら本当にすごいと思うけれども、常にいつも同じ人たちが、月一回で同じことの議論を重ねていっても、なかなか進んでいかないものもあるのに、入れ替わり立ち替わりみたいな感じで、どう持っていくことが可能なのだろうかというのがよくわからないのです。

参加者(女性) この会だけではなくて、ここからまた発展していくわけですから。

参加者(女性) だから、先程の運営委員会という時に、それをよしとなさるのかどうか。というのは、このままだったら、運営委員会で決めたりとかしても多分だめだと思うのですよね。

参加者(女性) そういった意味ではなくて、そうしたらいろいろな考え方ができる委員会を。ただ、形式的に委員会をつくりましたというのだったら、何も市民団体と同じ。ではなくて、活動があって、そこでできるからこそ、運営委員会という...

参加者(女性) というのをよしとなさるのかどうかという、そののところ。そうなったらすごくいいなとは思いますが。

原田部長 このプラザの、プラザはどうあるべきかという検討委員会からいただいている提言では、そうやりなさいとなっているのです。ただ、一番初めから私は言っているのですが、普通そういった委員会なり協議会なりつくりますと、初めにメンバーを決めるわけですよ。そのメンバーの決め方が、それがベストチョイスなのか、それをみんなが考えているのかと、これがあるわけです。ですから、どこまでということは今言えないけれども、だれでも入ってくださいというやり方で、とりあえず動いていきたい、フランクにいろいろな話を聞きたいということを僕は一番初めに申し上げたはずなのです。それでやっていく中で、例えば今日、こんな天気の中、来ていただきましたけれども、このまま続けていいたら、どんどん減って行ってしまいうからもしれないし、みんなが声をかけて

くれて広がるかもしれませんよね。その議論の中で、例えば、こういった形のものをつくったらいいのではないかという話が意見として出てきて、まとまっていくのなら、それは一つの考えだなと思うのです。ただ、今の段階で、こういう形にしましょうというやり方は、まだやりたくないと思うのですね。やっぱり活動を広げることが必要であって、形というのは、後の結果の話ですから、初めに形を考えたくないというのがあるのですよ。今はそんなことしか言えないのですけれども。

参加者(女性) そうしたら、お知らせの仕方はこういうのがありますよというのが、ホームページとメーリングリストだけというのは、ごく限られた人しかチャンスがないかなというので、もうちょっと何とか。

原田部長 例えばどんなふうにしますか。

参加者(女性) 例えば、私はたまたま環境財団のホームページを見ました。気づくのがちょっと遅かったのですけれども。私の関係のグループには、こういうのがありますよと、みんなのところにお知らせはしたのですけれども、それでも伝わる人というのは限られてしまうわけでしょう。だから、新聞にもちょっと、ここでいついつやりますよとか、環境プラザに来た人にお知らせのチラシを置いておくとか、市の区民センター、そういうところにチラシが置いてあるとか、ポスターが張ってあるとか、幾つかできるかなと。それで、もうちょっと見えるところというか、みんながここに来られるチャンスを増やすというか、それもやりながら、だれでも来ていいですよという感じにしないと、思っていらっしゃる意図とちょっと外れてきてしまうかなと。だんだん減ってくるのと、この間来た人が今回あるのを知らなかったのとで、また違ってくるわけだから。ちょっと残念かなという気がするのです。

原田部長 新聞に広告を載せるのは難しいと思います。

参加者(女性) 公告ではなく、やりますよと言ったら載せてくれたりするではないですか。

原田部長 投げ込みして載せてくれれば幸運ですよ。今おっしゃられた、ここにチラシを置くとか、区にチラシを置くことはできると思いますから、そういったことは考えていきます。

坂氏 最後にこのようなことを振られるのはつらいと思うのですけれども、札幌市議会議員をしております坂と申します。議員としてということではなく、一市民として参加をしているということで聞いていただきたいのですけれども、前回初めて参加をして、私は、この懇談会の目的は、最後はNPOなりにプラザの運営を委託するという方向に向かったの懇談会だと。だから、当然ゴールは、どのような形でどのような人たちにこの運営を委託していくという方向性に行くための集まりだと思っていたのです。前回参加したら、一応、プラザの説明が一通りあって、それで、局の方から、「さあ、どうぞ話をしてください。さあどうぞ」という感じで。投げられた感じで、何なのだろうと思って、何を望んでこの場を設けたのかなと。どうしてこのような進め方をするのかなと思ったのです。

今日はどういう形でやるのかなと楽しみにしてきました。今日は、プラザが具体的にこのようなことを、後期はこのようなことをやりますとか、これから、このように市は考えていますとかと、いろいろなお話をしていただいたので、それで、かつ、このプラザ全体の展示物についてどうですかという形で、実際にプラザがどういったことをこれからやろうとしているのか、どのようなものを目指しているのか、それを共通認識にした上で、このようなところがいけないから、このように変えていこうとかというアイデアをこの中から出して、それをみんなでまた共通意識を持って、次のステップに上がっていこうと。それで、最終的にはこの運営をどうしていくか、今日初めて、何となくわかったかなと。きっと、どのようなスタンスで私はここにいるのだろうかとか、ここは何をやろうとしている

のかとか、どのような計画でやろうとしてるのが見えないから、何をどう言っているかわからないとか、いろいろな思いができたのかなと思うのです。それが、ちょっとこの会議が暗いのではないかというのは、そんな思いがみんなにあったからではないかなというのを感じたのですよ。

札幌市ってよく、市民と協働でと言うのです。協働って、すごくいいことで、これからは協働でなければいけないと思うし、行政がみんなの税金を使って、行政が何でもかんでもやって、税金で何でもかんでもやって、はい、やってあげました、はい、つくりました、はい、使ってください、利用してくださいというのは、もう終わりだから、これからは、市民と一緒にやっという時代になってきたと。だからプラザの運営も行政が全部やるのではなくて、市民も参加してやっというとおっしゃっている。だったら、プラザをつくる時から市民を参加させてよと思うのですよ。最初から委託しようと考えているのだったら、つくる段階から使う側の意見を入れたものをつくってよと市民はきっと思っていると思うのですよ。市がつくってしまって、器ができた後に、さあ、市民の皆さん協働ですと言われても、ちょっとそれは遅いかなという気がするのですよ。何かその辺が、何となく行政と市民の溝というか、ちょっと意識の違うところというのは、きっとそういうところではないかなと、私は一市民として感じています。だから、今日も参加して、協働って本当にすごく難しいなと思ったのですけれども、でも、それをやっというよと、あえてこのような場をセッティングして、やっというスタートしたのだから、対立しては何も生まれないので、いろいろな意見を私たちも出しながら、どうしてやっというか、本音でプラザの運営を考えて、みんなで力を合わせていくのがいいのかなと思います。

何か突っつくようで申し訳ないのですが、私も今日開催というのを知らなかったものですから、慌ててお友達に知らせたら、前回、市の方からお便りか何かで懇談会の開催を教えてもらった方だったので、またお便り来るのかなと思っていたようで、今日行けなくて残念だと言っていました。どうしてもっと広く広報しないのかと、普通やはり、こちらの側からすると思うのですよ。これだけのものが企画できる行政の方が、どうしてこういう集まりをする広報を、どうしてできないのかなという素朴な疑問もあります。もっと広報の仕方って、いろいろなことを考えたら、あったのではないかなと。だから、そうしないと、本当に市民と一緒にやりたいと思っているのかなと、ごめんなさい、言葉は非常に悪いのですけれども、そう勘ぐられてしまうことってあると思うのですよ。だから、もう少しやり方を変えて、同じ目線でやっという方がいいかなと思います。ごめんなさい、大変失礼なこと言いました。

久保田氏 例えば毎月、第何週の何曜日というように決めてしまってはどうか？

司会者 私も今、むしろそこは、この問題というのは簡単に解ける、最初からの問題だと思います。それで、労力を、やっぱり皆さんの力も借りないと、ただ一辺倒な話をたくさんしても、なかなか結果に結びついていかない部分です。非常に大きな部分ですので、これはどうでしょうね、皆さんで今、提案がありましたけれども、できるだけ、そのところから力を貸していただき、ひとつ、私たちももう一度再検討しますけれども、多分結論は同じだと思うので、皆さんの力をぜひ貸してください。次のところは工夫します。今、久保田さんから、曜日等も少し工夫したらどうだという話もございました。それができるかどうかというのは、すごく難しい部分もありますので、それも含めて考えさせていただきます。ぜひ力を合わせて、皆さんの方が多く仲間がいるわけで、ぜひ広げていっていただければと思います。

約束の時間を35分も過ぎてしまいました。

参加者(女性) 私も今日の懇談会の開催について直前まで知らなくて、係長さんから教えていただいて、今日参加したのですけれども。例えば11月の半ばにやるとして、今度は、先程の39の事業の中で、このようなことは皆さんに提示できるよとか、案内するよとか、話し合いの内容というか、そういうものが少しでも案内いただけるのでしょうか。

例えば今日も、温暖化キャンペーン云々とかそういったものを、私は今日初めて知ったのですけれども、ホームページなんかにもそういうのが出ていたのかなと思って。

司会者 ただ雑談、集まっていたいて、お茶のみの話をしているわけではありませんので、やはりテーマの設定とか、私たちなりに考えているつもりです。そういった準備にどうしても時間がかかってしまって、なかなか約束の2カ月に1回とか1カ月に1回開催することができないというのが、正直なところです。

周知については、やはり一番の理由は、時間がなくて、周知から開催までの時間がなくなっているのが一つの大きな原因にもなっていると思います。その辺も含めて、内部でもう一度話をします。その後で、先程も言いましたように、皆さんの訴えをぜひ、呼びかけの段階から、ぜひ協働をお願いしたいと思います。よろしいですか。

参加者(女性) テーマについて、括弧書きで、予定でもいいし、そのように入れてくだされば、市民の人ももうちょっと、こういったことについて話し合いするなら出てみようと思うのではないかな…。

司会者 そうですね。テーマがわかれば、確かに。

参加者(女性) 予定でいいです、別に変わっても構いません。当日来て、ちょっとそういう話し合いが進んでいなくて、テーマが変更になっても仕方がないと思います。

参加者(女性) あと、懇談会に来る人だけではなくて、最初るとき、オープニングのときはなかなか間に合わなくて、私どももできなかったのですけれども、プラザを使っていろいろな講座をやって、アンケート等で、環境プラザでどんなことがあったらいいと思いますかみたいなのを必ず出してもらうとかの形でやっていかれたら、ここに来ている人以外の意見も聞けるのかなと思うのですけれども。あそこには、見てどうでしたかというアンケート用紙はあったのですけれども、実際、講座に参加してどうですかみたいなものも聞かれると、一石二鳥かなと思います。

司会者 ということで、よろしいですか。

今日は本当に長い間御苦労さまでした。雨降っていますので気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。